

J)C 型慢性肝炎治癒 6 年後に胆管細胞がんを発症した症例

75 歳男性。2011 年 6 月～2012 年 5 月まで、C 型慢性肝炎に対して、ペグインターフェロン・リバビリン (Peg-IFN + Rib) 治療を受けたが、HCV の駆除はできなかった (non SVR)。その後 2016 年 4.26～12 週間 DAA (ハーボニー) の投与を受け HCV は駆除された (SVR)。その後肝機能は安定し、年 1 回の腹部エコー検査でも異常を認めなかった。2022.10 の検診で胸部 XP をチェックされ当院呼吸器内科を受診した。胸部 CT で両肺に 1cm 前後の多発性結節を認め、転移性肺がんを疑う所見であった。同時に施行した腹部単純 CT で、肝左葉に low density area を認めたため、当科に紹介となった。Dynamic CT を施行したところ、肝外側区域辺縁に長径 3.4cm 大の腫瘤をみとめ、肝細胞癌 (HCC) よりむしろ胆管細胞がん (CCC) を疑う所見であった。肝機能は正常で、AFP, PIVKA-II も正常域であった。本症例の場合、過去の HCV 感染との関連は不明であるが、SVR 後に、HCC を発症した症例の報告が散見されるので当初は HCC を疑ったが、当症例のような存在にも留意すべきと考えられた。2006 年に甲状腺がん摘出の既往があるが、原発巣や腫瘍摘出の可否についての精査をかね、岩手医科大学消化器肝臓内科に紹介した。